

## 第 50 回北九州市 PCB 処理監視会議

1 開催日時 令和 4 年 10 月 21 日（金）14：00 開始 16：13 終了

2 開催場所 リーガロイヤルホテル小倉 4 階ロイヤルホール

### 3 会議次第

- (1) 北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況等について
- (2) 第 1 期施設の解体撤去工事の状況等について

### 4 出席者

#### (1) 委 員

浅岡 佐知夫	座長	内山 仁志	委員
大石 紀代子	委員	河井 一明	委員
清田 高德	委員	郡山 一明	委員
古柴 敏夫	委員	塩田 実	委員
末松 正典	委員	高尾 俊春	委員
成田 裕美子	委員	沼田 文子	委員
濱小路 兼生	委員	平野 建	委員
松永 裕己	委員	山口 隆広	委員
吉永 耕二	委員		

#### (2) 中間貯蔵・環境安全事業株式会社

PCB 処理事業部部長	足立 晃一
北九州事業所所長	石垣 喜代志
北九州事業所副所長	渡辺 謙二
北九州事業所運転管理課長	大井 勇一

#### (3) 関係行政機関

環境再生・資源循環局 廃棄物規制課長	松田 尚之
環境再生・資源循環局 廃棄物規制課長補佐	新保 雄太
九州地方環境事務所 福岡事務所長	白迫 正志

#### 北九州市

環境局長	柴田 泰平
環境局環境監視部長	作花 哲朗

#### (4) 事務局（北九州市）

PCB 処理対策担当課長	野田 明
PCB 処理対策担当係長	大田 育絵

## 5 議事概要

### ○事務局

それでは、定刻となりましたので、ただいまより「第 50 回北九州市 PCB 処理監視会議」を開会いたします。

まず初めに、お手元の配付資料を確認させていただきます。資料 1 枚目の議事次第に記載している資料です。資料 1～資料 6 までご用意しております。ご確認いただければと思います。それから、参考資料として、前回の会議の議事録、委員名簿、PCB 処理だよりを参考にご用意しております。資料について、不足等ありましたら、お申し付けください。

本日の監視会議委員の参加状況ですが、委員 19 名中、17 名の参加をいただいております。

また、環境省の廃棄物規制課長が 7 月 1 日付で着任されております。ひと言お願いできればと思います。

### ○環境省

委員の皆様、北九州市の皆様におかれましては、JESCO の PCB 廃棄物処理事業に、日頃から多大なご指導とご協力賜りまして、心より御礼を申し上げます。

また、昨年 9 月に環境省から行いました事業終了準備期間を活用した処理の継続に関する要請につきまして、今年の 4 月 25 日に、市長から大臣に対して、計画要請の受入れということをご回答いただきました。市民の皆様、委員の皆様、また北九州市の皆様に、前回に続いての要請という、非常に厳しい状況の中で、ご英断いただきましたことにつきまして、この場を借りて、改めて御礼を申し上げます。

本日は、前回の監視会議以降の、北九州事業所での PCB 処理の進捗状況や受入条件に対する対応状況を中心として、ご説明をさせていただく予定であります。頂いたご意見を踏まえまして、安全かつ確実な処理を進めてまいりたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

### ○事務局

ありがとうございました。今回の会議も、新型コロナウイルス感染防止対策を講じております。また、途中休憩を設けて換気もする予定にしておりますので、よろしくお願いいたします。

質疑応答の際にご発言する場合は、各自マイクをご用意しておりますので、電源をオンにしてご発言いただければと思います。

それでは、ここからの議事進行を座長にお願いしたいと思います。座長、よろしくお願いいたします。

## 議題 1 北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況等について

### ○座長

それでは、本日の議事に入ります

まず、資料 1 に基づき、「北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況について」JESCO から説明をお願いします。

### ○JESCO

資料 1 についてご説明します。

まず、1 ページ目の表 1 をご覧ください。令和 4 年 9 月末時点での処理状況をお示ししております。処理の進捗は、北九州事業所エリアにおきましては 99.3%、豊田エリア・大阪エリアにおきましては、それぞれ 87.4%・89.1%、全体で 92.2%の進捗となっております。

処理対象重量につきましては、前回ご報告いたしました数値より合計で 171 t マイナスとなりまして、合計 1 万 397 t となっております。マイナス分につきましては、処理対象重量全体に対して 1.6%に相当する量となります。このマイナス分は、搬入荷姿登録取消しが 34 t、PCB 特措法届出済 JESCO 未登録分 137 t が処理対象外と判明したことによるものです。処理終了までの処理計画につきましては、資料 4 でご説明いたします。6 月の処理再開後は、大きなトラブルもなく、順調な操業を継続しております。

続きまして、「(2) 運転廃棄物類（事業所間移動による処理状況）」についてご説明します。大阪事業所、豊田事業所で発生する高濃度 PCB に汚染されている運転廃棄物につきましては、各々の事業所では処理ができないものを北九州事業所で処理を行っておりまして、その実績につきましては表 2 のとおりです。運転廃棄物は、安定器よりも溶けやすく、プラズマ処理開始時に炉内へ投入すると早くスラグ浴ができ、安定器も溶けやすくなることから、プラズマ処理能力が向上するメリットがあります。しかしながら、両事業所におきましても自所処理を推進しておりまして、令和 4 年度の搬入実績は表のとおり少なくなっておりますけれども、不足分につきましては、北九州事業所で発生する運転廃棄物で対応しているという状況です。

続きまして、「(3) 設備の稼働状況」のご報告です。9 月に、電力会社の送電設備にトラブルが発生し、緊急メンテナンスが必要ということから、電力の供給が停止しました。電力会社側の要請による停電は 1 日でしたが、炉の温度を上げる、あるいは温度を下げる期間を含めて、プラズマ処理が 8 日間停止するという状況が発生しております。

続きまして、資料の 2 ページ目についてです。今年の 9 月は週末ごとに台風が日本に接近するという状況でした。まず、9 月 19 日に北九州に最接近いたしました台風 14 号の影響で、複数の作業者の通勤が困難となり、プラズマ設備の 2 炉体制がとれなくなったことから、1 炉の処理を 1 日停止しております。また、9 月 6 日に北九州に最接近しました台風 11 号の影響によりまして、写真 1 にありますとおり、2 期施設の

屋根板金の一部がめくれるという事象が発生しましたがけれども、雨水等の侵入はありませんでした。写真2のとおり、既に屋根板金の修理は終了しております。この台風による操業への影響はありませんでした。

続きまして、3ページ以降の別添1についてです。操業に伴う実績につきましてご説明します。いずれの表も黄色く塗りつぶした部分が新たな実績値となります。順調な操業が続いておりますので、3ページに記載のPCB廃棄物の受入状況、4ページの処理状況、及び5ページ以降の処理済物の払出状況の実績につきましても、操業状況に伴って実績が積み上がっておるという状況です。

以上、資料1のご説明となります。

#### ○座長

続きまして、資料2に基づいて、「北九州PCB廃棄物処理施設の環境モニタリング結果について」、まずJESCOから、引き続いて市から説明をお願いします。

#### ○JESCO

資料2 環境モニタリング結果についてご説明します。

JESCO側の測定結果については、周辺環境並びに排出源において、いずれの測定項目についても環境基準等に適合していたということをご報告します。

それから、2ページ目以降についてです。個別の測定結果等についてご説明します。

まず、「(1) 周辺環境」について特筆する点としましては、資料の3ページ一番下、4番の「土壌」のデータにおいて、令和3年度のデータでは、ダイオキシン類濃度が2.1pg-TEQ/m<sup>3</sup>と、昨年までのデータよりも1桁高い値が出ているという状況です。ダイオキシン類の組成につきましては、ジベンゾフラン、ジオキシンの燃焼系由来のダイオキシン類が9割以上を占めておりまして、また、環境基準の1000pg-TEQ/m<sup>3</sup>に対しては十分に低い値であり、問題ないものと考えておりますけれども、引き続き注視してまいりたいと思います。

続きまして、資料の4ページについてです。5番の「底質」のデータについてもダイオキシン類濃度が10pg-TEQ/m<sup>3</sup>と、昨年度までのデータよりも1桁高いデータが出ているという状況です。このデータの組成も土壌のデータと同様、燃焼系のダイオキシン類が9割以上を占めておりまして、また環境基準の150pg-TEQ/m<sup>3</sup>に対しては十分に低い値であり、問題がないものと考えておりますが、こちらのデータにつきましても引き続き注視してまいりたいと思っております。

なお、このモニタリングの調査地点については、資料の14ページをご覧ください。この14ページにお示ししているのが、モニタリングの調査地点図です。今ご説明いたしました土壌につきましては、この2期施設の東側の施設境界の地点、この図面で言いますと、右側に黄色く塗りつぶされている所に「土壌・地下水」と書いております。土壌はこの

地点でのサンプリングです。それから、底質につきましては、JESCO 立地場所の南側の洞海湾側の海岸から 60m の地点、資料で言いますと一番下の所、海岸から 60m の地点に「底質」と書いております。この湾内の水深約 10m の地点からサンプルを採取しております。ご確認いただければと思います。

続きまして、排出源のモニタリングということで、5 ページ以降のご説明となります。まず、5、6 ページが第 1 期施設からの排出データとなりますけれども、以前のデータと同レベルの値が出ているということで、問題がないものと考えております。第 1 期施設につきましては、ご承知のとおり、既に解体撤去に入っております。今回お示ししましたデータのうち、前回の監視会議にてご報告しました、1G1、1G4、1G5 に加えまして、1G2、1G7 につきましても設備の稼働停止、作業の完了に伴い、モニタリングを終了したいと思っております。従いまして、次回以降の監視会議におきましては、1 期施設のモニタリングについては換気の 1G6 のご報告です。

この件に関しましては、こちらも資料の 15 ページをご覧ください。第 1 期施設のサンプリング箇所の系統図を載せております。グレーで塗りつぶしてある部分が、設備の稼働を終了した系統ということで、ご確認いただければと思います。

続きまして、資料の 7～11 ページ、これが第 2 期施設の排出源のデータです。第 1 期施設と同様に、測定値につきましては以前のデータと同レベルの値が出ているということで、問題はないものと考えております。また、第 2 期施設におきましても、処理終盤に差し掛かっております。その状況を資料の 7 ページの一番上のところに記載させていただいておりますけれども、VTR 処理対象の小型電気機器について、もう既に対象物がなくなったため、中間処理設備は今年の 3 月に既に稼働を終了しております。また、液処理設備につきましても、ちょうどこの 10 月に稼働を終了しております。したがって、次回以降の監視会議におきましては、2G2、2G4、2G5、2G6 につきましてもモニタリングを終了したいと考えております。

こちらも、資料の 16 ページの系統図をご覧ください。1 期施設と同様に、グレーで塗りつぶしてある部分が、設備の稼働を終了した系統を示しております。併せてご確認いただければと思います。

最後に、11～12 ページに記載しております、「公共下水道排水」、それから「雨水」、「悪臭」、「騒音」につきましても、測定データには問題ありませんでした。

以上が、別添 1 の、JESCO が実施しましたモニタリング結果のご報告となります。

## ○北九州市

続きまして、北九州市の環境モニタリング結果について、ご報告します。資料は 19 ページをお開きください。先ほど JESCO から報告がありましたように、今回対象となる期間に測定したものにつきましては、黄

色でマーカーを付けております。

まず、周辺環境についてです。19 ページ、20 ページの「大気」、21 ページの「水質」、「土壌」、22 ページの「底質」について、いずれの項目につきましても、環境基準、それから JESCO と市で結んでいる協定値に適合しております。

なお、先ほど JESCO から詳細な説明がありました、周辺環境の土壌、底質についてですが、土壌については 21 ページをご確認ください。下のほうの 3 番「土壌」のところですよ。測定値については JESCO 同様の傾向ですが、市としましても測定値は環境基準値に比べて十分に低い値であり、人の健康や周囲の環境への影響はないと考えております。

また、底質につきましては、22 ページ、4 番の「底質」です。市の測定値は従来から安定しており、これも環境基準値に比べても十分に低い値であることから、環境への影響があるとは考えておりませんが、引き続きモニタリング結果を注視してまいりたいと考えております。

23 ページ以降が、「排出源」となっております。23～28 ページの「排気」、それから、29 ページの「公共下水道排水」、「雨水」に関しましても、全て基準値、協定値に適合しておりました。

以上です。

#### ○座長

それでは、資料 1「北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業状況について」資料 2「北九州 PCB 廃棄物処理施設の環境モニタリング結果について」、委員の意見や質問がありましたら、よろしくお願いします。

#### ○監視委員

先ほど JESCO が触れられました、ダイオキシン類の数値の件ですけれども、過去の会議でも理由がはっきりしないというところと、あと、1 期施設の解体がこういう高くなっている数値に影響してないかというところの質問が、過去の会議でも出ていると思うのですけれども、こういった影響というのは何か考えられないのでしょうか。

#### ○JESCO

ご質問、ありがとうございます。解体のほうでまたご説明いたしますが、解体工事を行う際には、解体作業での作業環境であるとか、排出源のモニタリングというのも実施しております、問題ない値が出ているということが確認できております。従いまして、操業も終盤になる中で、プラズマ炉、あるいは VTR も JESCO としてはまだ稼働はさせておりますけれども、排出減のデータに関しましても問題がないという状況です。

先ほどおっしゃられたとおり、前回からもご報告しておりますが、この周辺環境におきますダイオキシンの上昇がどんな理由によるものかということについては、特定はできておりませんけれども、我々として

は、外部には PCB 並びにダイオキシンは出さないということで、定期的な確認もしっかり行っております。また、今後のデータも確認しながら、万が一、さらに特異なデータが出た場合には、また北九州市様にご相談させていただきたいと思っております。

○座長

今の質問に関して確認したいのですけれども、ダイオキシンの内訳に関して、北九州の PCB 処理施設で出るダイオキシンの組成と、実際に測定された組成が違うという話が前回あったように思いますが、その話をして、今の監視委員の質問に答えていただきたいのですけれども。

○JESCO

承知しました。この周辺環境のダイオキシンのデータの組成も全て調べております。また、我々の排出源のデータについても組成を調べておりまして、組成の割合という意味では、周辺環境につきましては、いわゆる燃焼系と言われるジオキシン、それからジベンゾフランという割合が多くなっております。一方、プラズマ炉におきましては、これも基本的には PCB は出ておらず、ダイオキシンの組成はそんなに変わりはないのですが、かなり濃度は低いという状況です。そのところの組成が違うかと言われると、それほど大きな差はないのですけれども、濃度的なところで判断をしておるところです。

○座長

組成は変わらないのですか。

○JESCO

測定のたびにばらつきがありますので、その測定ごとで必ずしも全く違うという状況ではありません。

○座長

処理施設には 2 種類の排出源があります。要するに、化学処理の部分と、プラズマ処理の部分があります。その場合のダイオキシンの組成は違うのですか。

○JESCO

いわゆる化学処理における PCB 処理の排気につきましては、化学処理のほうは基本的には PCB 由来が主であると思っておりますけれども、基本的には十分に低い値ということです。今は組成のデータを持ち合わせておりませんので、いま一度確認をさせていただきたいと思えます。

○座長

それから、解体時に残留している、濃縮吸着しているダイオキシン類がありますよね。その組成も今の質問に絡むデータですので、それに関してはどうですか。燃焼系か燃焼系ではないか、教えてください。

○JESCO

2月の会議の前にやはり同様なご指摘を頂きました。それで、2月の時にもご説明したのですけれども、いわゆる解体撤去から出てくるダイオキシンは、いわゆるコプラナーPCBが全量であったといったところでございます。片方で、大気中のダイオキシンはジベンゾフランとジオキシンが大半であるということから、JESCOの施設から出てくるダイオキシンの組成と外部の組成は大きく違うということなので、北九州事業所からの影響ではないと判断しております。

○座長

それが前回の報告だったですね。だから、解体に伴う増加ではないということは、少なくとも言えるということですね。  
ほかの委員。

○監視委員

今、議論になっているところですが、このモニタリングの間隔が年に1回になっていると思うのですが、こういう値が少し高くなっていた場合に、モニタリング間隔について、このくらいになったらもう少し細かく見る、あるいは継続的に上がっている状況が確認できたらもう少し間隔を狭めるといった、何か決まりがありますか。

○JESCO

環境モニタリング計画につきましては、監視会議の資料、17、18ページのところに、「環境モニタリング計画」というものをあらかじめ定めまして、この計画に基づいて測定をいたします。この測定結果を踏まえた上で確認をするのですけれども、基本的にはこの測定の頻度を下げるとことは行っておりません。必ずこのモニタリング計画に基づく測定は実施しておるところです。

それから、従来からも何回かご説明をしておりますが、今までのデータに対して、従来のデータと比べて高い値が出ていると判断した場合は、再測定というのは実施しております。これも監視会議ではご報告しておりますが、では、その元データに対してどれくらい増えたら再測定をするのかというルールは決めておりません。従いまして、そのデータを見ながら、再測定をするかどうかという判断は、事業所の中で議論をして決めているという状況です。

○座長

再測定という意味が、サンプルは何点分析かするのではないですか。再測定という意味が違うのではないのでしょうかという質問なのです。



再測定というのは、そのデータが信用できない場合と、そのデータが出る頻度の話と、2通りありますよね。それで、1回のサンプリングで1年に1回か2回かの測定は再測定の対象ではなくて、その値が信用できる値として対策を考えるということですよね。

○JESCO

はい。

○座長

モニタリングをしているということですね。だから、再測定はまた意味が違うのだと思うのです。だから、どういうケースで再測定するかという基準がありますかという話なのです。

○JESCO

そういう意味では、各測定項目に対しまして、いわゆる再測定の実施する基準というのは定めてはおりません。あくまで過去のデータと比較をして、例えば上昇傾向にあるとか、あるいは基準値に近づいたというような場合とか、そういったときに重点的に測定をするというようなことを考えております。

○座長

だから、頻度を上げるという意味ですね。

○JESCO

はい。

○座長

だから、数値の変化が激しい場合には測定頻度を、従来の長い期間に1点という頻度をもう少し早めるということですよ。

○JESCO

はい。

○座長

そうですね。それが正しくて、それはそれなりのカーブを見越して前倒しに対応するということですよね。

○JESCO

はい。

○座長

では、ほかに。

○監視委員

今の質問と少し関連するのですが、北九州市の PCB の排気処理施設からのモニタリング結果、別添 2 の 19、20 ページに関係するところですが、20 ページのベンゼンの排出量の測定で、令和 4 年度の 8 月に 0.0029 と値が出ています。基準値の 0.003 に非常に近づいているわけですが、例えばこの場合に測定頻度を上げるとか、そういうことは考えられてないでしょうか。この場合は、基準の 0.003 に下回っているので、追加で検討することではなくて、翌月度に測定したら下がっていたということなのでしょうか。

○北九州市

今頂いた質問に対しては、このベンゼン自体、環境基準は年間の平均値です。今回、8 月が 0.003 に近づいたということで、年間で見ますので、これまでのトレンドもこの値が各月で出ているところもありますので、市としては、特段問題意識はありません。

○監視委員

分かりました。年間の平均値というのが上のほうに書かれていますね。そうすると、これは年間の平均値と単独月度の値と両方記載して運用していくということがいいかもしれませんね。

○北九州市

ご意見ありがとうございます。これまで年間 3 月まで通して最終的に平均値をご報告していたのですが、報告の仕方をまた検討させていただきます。

○監視委員

分かりました。ありがとうございました。

○座長

他に意見等はありませんか。

○監視委員

先ほどのダイオキシンの話ですが、ここで数値が出ているのですが、これは要するに測定誤差がどれくらいあるかという、いわゆるプラス・マイナスですね。つまり、これくらいあったら異常だとか言われているのですが、どれくらいの変動があっているのかというのが、これは数値だけ出ているので、今の測定機器はみんな数字で出てくるのですが、全て同じサンプルで何回かやっても同じ値が出てくるということはないと思うのですが、その辺のところはいかがでしょうか。つまり振れ幅です。

○座長

このダイオキシンの測定結果は3回測定の平均値ですよ。1点ではないですよ。そう思うのですけれども、違いますか。

○JESCO

ダイオキシンは基本的には、例えば周辺環境であれば、1週間なら1週間の間の大気のサンプリングを採って、それで分析しております。

○座長

分析手法の話です。ダイオキシンは分析手法が3回測定ではないですか。単に1点ですか、という話なのです。だから、ダイオキシンの測定に関しては、誤差がどの程度あるかという、その中の中央値を取るのか、平均値を取るのかという手法を取ってないですか。

○JESCO

ダイオキシンについては1回の測定ということになっています。

○座長

1回でガスクロ打って、ガスマスか何かを打って測定しているわけですか。

○JESCO

そのとおりです。

○座長

そういう形ですか。そうすると、誤差は分からないということですか。

○JESCO

はい、そういうことになります。

○座長

サンプリング誤差は、サンプル頻度を上げれば分かるという話ですよ。ダイオキシンは、今、1点が幾らくらいの値段ですか。

○JESCO

1サンプルの測定で10万円くらいです。

○座長

10万円に下がってきているけれど、まだ10万円ですか。だから、そんな頻度を高く分析できないですよ。ですから、全体の傾向として規制値よりもはるかに下であれば、十分安全性が確保されているということで「よし」として、その頻度もそんなに上げずに、費用対効果の話で今まで来たわけですね。

○JESCO

はい。

○座長

分かりました。よろしいですか。

○監視委員

はい。

○JESCO

すみません、先ほどの質問で認識が間違っておりましたので、ご報告します。先ほど、液処理系、いわゆる化学処理の部分での排気の測定のデータをあらためて確認をいたしまして、値は低いのですけれども、やはりコプラナーPCBが主体となっております。大変申し訳ございません、間違っておりましたので訂正させていただきます。

○座長

コプラナーPCBが多いということは、処理施設の特徴ですよ。

○JESCO

はい。

○座長

だから、今回の値が上がったものの中身としては、そうではないものが測定されているということですよ。そういうことで、先ほどの質問の答えになっていますね。

○JESCO

はい。申し訳ありませんでした。

○座長

ほかの委員、ありませんか。

では、次の議題にいきたいと思います。続きまして、資料3「北九州PCB処理事業における安全計画」について、JESCOから説明をお願いします。

○JESCO

引き続きまして、資料3についてご説明します。

北九州事業所では安全な操業を確保するため、処理施設の保全、トラブル防止及び災害対策についての取組を実施しておりまして、その内容についてご説明をします。

まず、「Ⅰ 施設の保全」についてですけれども、設備の健全性を確保するため、日常保全及び定期点検の結果に基づく保全を継続して実施

するとともに、点検結果や経年劣化予測に基づく設備の補修・更新を実施しております。

I-1におきましては、この4～5月に実施いたしました処理継続に伴う安全点検について、記載しております。本内容につきましては、前回の監視会議でご報告しましたとおりです。また、令和5年度まで、すなわち操業終了までの保全につきましては、各設備の稼働状況の把握、異常の早期発見を目的とした日常保全、専門メーカーによる設備の稼働確認や消耗部品などの交換、緊急停止機能の維持等を目的とした定期点検を継続するとともに、点検結果や経年劣化予測に基づく設備の補修・更新を実施していく予定としております。主な補修項目については、2の①並びに②に記載しているとおりです。

続きまして、「Ⅱ トラブル防止策」についてです。まず、前回の監視会議以降、北九州事業所におきましては、トラブル等の発生はありませんでした。また、トラブル発生防止策としましては、1のところで、北九州事業所において実施している安全操業協議会等の会議等の内容、続きまして、次のページで、2といたしまして、JESCOの本社において実施している活動等の内容、3におきましては、実施しております解体撤去工事における安全対策の実施内容について記載しております。ご確認ください。

最後に、Ⅲといたしまして「防災対策」について記載しております。まず、年に1回開催しております総合防災訓練ですが、例年どおり若松消防署のご協力を得まして、今年は来週の26日に実施する予定としておるところです。また、9月の台風11号及び14号の接近に備えて、2回の防災対策委員会を開催し、記載内容につきまして事前の協議を実施しております。

今、ご説明しました内容に関する、令和4年度の計画並びに実績につきましては、その次のページ、3ページに、別添1としてまとめております。実践につきましては、赤色の表示で示してある分、これが実績となります。表の上半分でございますけれども、実施する主な保全計画並びに実績、表の下半分には、トラブル防止のための活動計画及び実績、並びに防災対策の実績を記載しておりますので、ご確認ください。

続きまして、資料の4ページ、別添2をご覧ください。操業再開以降のヒヤリハットの資料です。6月以降の各月ごとの「実体験ヒヤリハット」、「仮想ヒヤリハット」の件数を一覧表にまとめております。

実体験ヒヤリハットにおきましては、3件ありました。1件目は、階段を下りていた時に、踊り場にある扉が急に開いて接触しそうになったという案件です。対策としてドアセンサーを設置しております。2件目につきましては、当人が急いでいたために階段を段飛ばしで下りてきたという事例で、上司から当該者に指導・注意を行っております。3件目は、壁に掛けてあった額縁が急に落下したということで、額縁の木枠が破損したという事例です。吊り下げをひもからワイヤーに変更するとともに、不要な吊り下げ物は撤去するという対応をとっております。

す。

続きまして、仮想ヒヤリハットについてです。全部で34件ありますが、そのうち代表的な3つの案件についてご報告します。1件目は、受入作業において搬送容器のふたを仮置きするためのバン木につまずいて転倒する恐れがあるというものです。対策としまして、バン木にトラテープを巻き、気付きやすくしたということ。また、併せて、危険予知・足元の確認を十分に行うこととしております。2件目につきましては、ドラム缶の運搬の際に、梁とドラムポーターの間に手を挟むなどの恐れがあるため、作業時は確実に電灯をつけて明るくするようにしたなどの対応を行っております。ドラムポーターは、その下に「参考」と書いております、このような道具でドラム缶を運搬するということを行っております。3件目は、VTRケースの運搬時に吊り手部にハッカーを掛ける際の挟まれ防止のため、シャックルを活用して、挟まれにくい状況で作業を行うということに変更しております。同じく、ハッカー並びにシャックルの写真を載せております。ハッカーだけだと、掛ける際にお互いの金具が合わなくてはめにくいという状況から、シャックルを利用して挟まれにくい状況をつくるということに変更しておるところです。

説明は以上です。

#### ○座長

今日の午前中に我々監視会議の委員が施設に立入りを行っております。今の説明とともに、参加された各委員から立入りの感想を聞かせていただいて、討論に移りたいと思います。

#### ○監視委員

久しぶりに施設を見ましたけれども、午前中に座長も言われていましたけれども、今回、モニターで初めて汚泥の詰め替え作業を見ました。これは非常に大変な作業だと分かったことが、今回、私にとっては一番の収穫でした。

今の説明は安全計画でしたけれども、安全に関しては特に問題になりそうなところは感じませんでした。あと、いよいよ終わりが見えてきましたけれども、このまま無事に作業終了までいってほしいと思います。

#### ○監視委員

今回、現場を見せていただいた中で、配送の箇所を拝見させていただきました。今までで初めての場所でしたけれども、トラックを横付けして、そのトラックに配送するものを引き出していたわけですが、適切に配慮して運用されているということが拝見できました。特に問題なく運用されているなという印象を持ちました。

#### ○監視委員

私も今回初めていろいろ見せていただいた所が随分ありましたけれども、途中、機械ではできないで、容器ですくって手に移して、くるんで配送の場所に送っていくという工程を見た時に、手袋とかはめておられますけれども、手で受けるところで何か事故が起きなければいいなど、少しひやひやししながら見たところがあります。専門職なので、そのところはないと思いますが、やはり直接物に触る時の安全を、下に何かこういうふうに置いておいて、一遍そこに入れて、それを包んで、とかならないのかなと。それだったら時間がかかって、余計途中でこぼれたりして事故が起きるのかなとか思いましたけれども、そこはプロの方なので信頼してお任せしているのだろうと思います。

プロの方という言い方をしましたけれども、私は、いのちのたび博物館に何年間か勤めたことがあります。その時に、ティラノサウルスの恐竜がカナダから来た時に、専門の業者の方がティラノの骨格標本を運んでみえて、カナダの方が何週間かかかって直接それを取り付けて、現地の専門職の方だけでずっとそれを作業されました。

今日、JESCOの方は、結局皆さんが専門職の方になれると思うのです。だから、やはり専門職としてのプライドとか自信を持って、そして責任感を持って、今後2年間作業してもらったら、ヒヤリハットのような事故も起こらず、地域の皆さんが安心してこのJESCOを見守っていただけるのではないかと期待しております。どうぞプライドを持って仕事をされてください。

#### ○監視委員

本日の午前中に立入調査をしました。令和5年度末までの期間内に、1日でも早く完了されるための関係者の皆様の姿を拝見いたしまして、非常に制御されておられ、努力されていることが伝わってきました。区民の皆様方が安心されるのではないかと思います。この近くの地域に住んでいらっしゃる方は、来年度まで1年延びたということで、非常に不安を持っておられました。今日、立入調査をしたことは私どもにとりましては、地域の方に説明ができるのではないかと考えております。

それから、前回も申し上げましたけれども、「PCB 処理だより」をお配りする時に、機会があれば進捗状況などを少しでも詳しく記事として載せていただければ、なおよろしいのではないかと考えております。よろしくお願いします。

#### ○監視委員

視察を行うにあたっての準備、お疲れさまでした。今さらながら、扉の開閉時の安全を図るための装置など、改善されているなど思いました。今回、あらためての作業間もないですが、この調子で、無事故でお願いします。

#### ○監視委員

今日、立入りをさせていただいたのですけれども、回を重ねるごとに、

どんどん進捗しているというのものもあるかもしれないですけども、例えば工場内に置いてある物とか周りの物とかが整然とされているような気がしております。かなりきれいな状態になっているという印象を持ちました。

安定器等の受入作業の所も、今日、初めて見せていただいたのですが、見た状態では6名の方が指さし、声出しをしっかりとしながらされていた姿を拝見させていただいて、そういった安全に配慮した作業で進められているなというところが印象に残っております。

#### ○監視委員

午前中、工場を見学させていただきました。ありがとうございます。

グローブボックスで、搬入されてきたものをまた1つ別の容器に移し替えて処理されるという状態であったと思いますが、3、4人の方々が順番に交代しながら安定器を別の缶に入れるという話がありました。どの程度の間隔で順番にやるのかよく分かりませんが、かなり大変な状況なのではないかと思うのです。やはり、説明の中でも腕がだるくなったりという話をされていましたが、恐らく状況としては30分、40分すると大変な疲れを覚えるだろうと思うのですが、そういうことを繰り返しながらされているというのは大変なことだと思います。

私が素直に感じたのは、なぜあそこで積み替えをしなければいけないのかということを感じました。なぜ受け入れたものをそのまま処理まで持っていけないのか、その辺が理解できなかったのも、安全性ということを考えてもそうですし、漏れということを考えても、そのまま持っていければ一番いいのかなと思っておりますが、その辺はまたあとでお聞きしたいと思います。

#### ○監視委員

私はこちらに来てから3年半お世話になっているのですが、今まで見学全部参加しているのですが、今日は初めてグローブボックスで作業している作業の方を本当につぶさに見て、大変参考になりました。

それと、入ってきた物がどのようにして運ばれて、安全にラックに入って、順序よくプラズマ処理されて、その処理した物がまたスラグとなって出てきた、これをまたフォークリフトですくい、安全にトラックに乗せる。そこまで見られたのは、今日が初めてでした。今まで説明だけで聞いていましたから。

あと、その処理した物、スラグが路盤材になると聞いていたのですが、北九州市内に当然中間処理業者がいると思うのですが、路盤材という名目で改良骨材として出すということですから、その改良骨材がどのように世の中に回っていくかというところまでご説明が欲しかったです。

とにかく、これから完全に処理するまで、今の作業を維持して安全作業に努めてください。



## ○座長

私の意見としては、今日見学させていただいたのは、今まで見学できなかった部分を見せていただいたので、これは何を意味するのだろうと考えました。

逆に、どこを見たかといいますと、やはり先ほど各委員の方からおっしゃられたように、詰め替えの作業、それから、委員の中からは出なかったですけど、PCB 含みの汚泥に関するサンプリングの作業、それから安定器の詰め替え、前は、グローブボックスでの作業中に我々見学者が見学するということはありませんでした。それから、最後のポイントとしては、プラズマ溶融のスラグの排出作業、これも初めて見ました。

だから質問したのですけれども、今回の立入りのプログラムは新たに継続になって、延長になってやった作業ですかと言ったら、「いや、そんなことはありません。今まで安全に作業してきたことです」ということです。要するに延長しても従来と変わりなく、安全に確実に操業しているのだよというところの自信の裏返しではないかと思いました。今までは作業中の見学など、危険がある程度伴うからやらないというような用心深さがあったのですけれども、逆に言えば、そうすると少し慣れが怖いかなというところもありますので、そういう点に注意しながら、あと2年の操業を行っていただきたいと思います。

この立入調査に関する感想はそういうところなのですけれども、先ほどの監視委員、質問事項があるので、そこから最初に入りたいと思います。そのあと引き続いて、参加されなかった委員に関しても、この安全計画に関して、挙手によってコメントを求めていきたいと思います。

では、もう一度質問をお願いします。

## ○監視委員

大きなドラム缶から小さなドラム缶に移し換えていたということですが、なぜそれを必要とするのか、その辺がよく分からなかったのです。溶融炉が小さくてそこまでできないのか、それとも、その時の PCB のにじみとか、その他を確認するためなのか、その辺がよく分からなかったのです。素直に、わざわざそんなことをしなければいけないのかということです。

それと、座長が言われていたように、もう1つのほうですが、残存物をまた同じように使うような形で言われておられましたけれども、その時にも、やはり手作業でわざわざ小さく小分けしていくという、なぜそんなことをしなければいけないのかなというのが、非常に疑問に感じたところです。通常、会社などにしても、入ってきた物をそのまま処理できるのであれば、間違いなくそのままやるだろうと思うのです。だから、何のために小分けするのかというのが理解できなかったのです。教えていただければと思います。

## ○JESCO

ご質問ありがとうございます。まず、なぜ小分けをするかということですが、まず、搬入されたものについては、我々、全数チェックを行っております。これは搬入された物が、本当に内容物の連絡があったとおりの物が入っているかどうか。時々、やはり搬入物とは違うといいますが、例えば、水分が多く入っている物とか、いろいろな物があります。仮に水分が入っておりますと、そのままプラズマ炉に投入すると大変危険な状況になる可能性があります。従いまして、搬入された物は全数、中身をしっかり確認して、プラズマ炉に投入する不適物がないかどうかというところの確認を行うというのが、まず必要なことです。

それと、プラズマ炉に投入する際は、1回の投入で、例えば安定器であれば60 kgという処理の標準があります。従いまして、搬入されるものはそういった投入に見合った重量ではなくて、1缶何百キロというようなかなか重い物もあります。これにつきましては、そのままでは投入ができないということで、中身を全数チェックした上で、詰め替えて、プラズマ処理に適正な重量に小分けをして行っています。

その他汚染物につきましても同様で、その他汚染物は安定器と違って、プラズマ炉に投入をすると、熔融は早いのですが、熱量を維持することができません。すなわち、鉄ですとその酸化熱によってある程度プラズマ熔融炉のスラグの温度を維持することができるのですが、その他汚染物をたくさん入れてしまうと、熱量が維持できなくて炉の温度が下がってしまいます。従いまして、その他汚染物につきましては小分けをして、量のある程度限った状況でプラズマ炉に投入することを行っておりますので、今回ご覧いただいたような作業を行っております。

○座長

監視委員、よろしいですか。

○監視委員

例えば、その他汚染物に関して言えば、あらかじめ、例えば100 kgだったなら100 kg入るだけの形状のものを作っておいて、そこに入れて、それを積み重ねて置いておくとか、そういう形にすれば、ドラム缶の中からそれを取り出すというのは、非常に体勢的にも腰に大きな負担が掛かると思うのです。その辺を改良するだけでも安全性はかなり改善されるのではないかと思いますのですが、いかがでしょうか。

○JESCO

ご心配いただきましてありがとうございます。先ほど申し上げた中で、その他汚染物につきましては、例えばおっしゃられたとおり、100 kgというような投入は、実際は作業上無理となっております。今、その他汚染物については4~5 kg程度という非常に少ない量で小分けをして投入しておりますので、やはり、先ほどご覧いただいたような作業を行わないと、プラズマ処理に影響が出るというような状況になります。

○監視委員

例えば、今言われた4～5 kgというのは、ちょうどVTRで出てきた小さな袋に入れるのが、それくらいの重量になるのかなと思うのですが、それであれば、最初にその他汚染物が出た所で、そういう容器を作っておいて次々に入れるようにしたほうが便利ではないかと思うのですが。

○JESCO

その他汚染物に関しましては、保管事業者様から処理を我々が受託します。保管事業者様はなるべく容器を少なく運搬したほうが、例えば運搬回数が減らせるなど、いろいろなメリットがあります。そういった中で、その他汚染物の性状もいろいろ千差万別ありますので、我々としては、全部中身の状況を確認して、そして、我々の投入に合う形で我々が前処理作業をする、いわゆる事前小分けをするということを行っております。

○監視委員

分かりました。私の感覚では、その他汚染物というのはPCBの処理の段階で出るものと理解していたので、ほかの事業者から受けるのであれば、それはそのとおりだと思います。

○JESCO

ありがとうございます。

○座長

よろしいですか。

○監視委員

はい。

○座長

通常、世の中で使われているドラム缶は200リットルですか。

○JESCO

一般的には200リットルドラム缶になります。

○座長

それが一般的に保管されているような状況なのですね。

○JESCO

例えば、その他汚染物というのもいろいろな種類がありまして、もともとドラム缶に入っているものではありません。保管事業者様が我々に処理を委託する際に、その汚染物をドラム缶に詰めて保管して、運搬するということになります。

○座長

それが一番、普通にやりやすい方法だということですね。

○JESCO

そういうことです。

○座長

分かりました。

どなたか、意見は。では、お願いします。

○監視委員

今、安全について皆さんたちからいろいろな話が出ております。私の企業もものづくりで、やはり安全面には気を使っているところであります。JESCOはPCB廃棄物の処理を行いますが、うちは鉄鋼物です。特に重量物、やはり安全が一番大事なことで、ヒヤリハットを起こさないように考えております。皆さんたちのいろいろなご意見をお聞きしたのですけれど、私たちから見たら当たり前の話だなと思っております。一回皆さんたちで、うちの会社の安全を確認していただければ非常にありがたいと思っています。

やはり、物が処理メーカーとは少し違いまして、うちは圧延機などの製鉄機械のものづくりですから、1つの物が30t、40tという重量物です。だから、やはり安全には随分気を付けております。皆さんたちもいろいろなものを見られて、安全についてお話しされているのでしょうか、時間があれば一度うちの会社も見て、こういうのをしたらどうですかと安全を教えていただければ非常にありがたいと思います。

○監視委員

立入検査には参加できなかったのですが、この資料で質問させてください。この中に、解体工事の安全対策で毎日事業者によるパトロールを実施しているということがあります。これは大変念の入ったことで、いいことだと思うのですけれども、この毎日事業者によるパトロールで実際に有効に機能しているのかどうかということで、質問させていただきたいのですけれども、実際にこのパトロールの中で不安全行動を見つけたとか、あるいは是正させたとか、そういう事例があるのかどうか。あれば教えていただきたいと思います。

○JESCO

具体の例が、今、頭の中にはないのですが、基本的に現場でパトロールをして、やはり、例えば脚立とかを使って若干足場が悪いときとか、そういったものは現場で指示をします。その指示した内容が、今度、夕会の時に、現場でこういう指示をしましたという話を工事業者にもして、その記録も残して、その記録が関係者とも周知されるというような形で、今、対応は進めております。

○監視委員

では、そういう実施例があって、有効に機能しているという理解でいいですか。

○JESCO

はい。

○監視委員

もう1点、教えていただきたいのですが、その裏のページにヒヤリハットの件数がありますね。別添2の資料ですけれども、これは、一般的にはヒヤリハットというのは労働災害防止の観点から実施されているのが通例だと思うので、ここに挙がっている件数も恐らく、いわゆる労働災害、傷害事故防止のヒヤリハットが挙がっていると思うのですが、できるかどうかは別ですけれども、提案ですけれども、労働災害は、安全にやらなくてはいけないのはもちろんですけれども、やはり、いわゆる運転ミスとか、あるいは作業ミスといったことによって設備事故を誘発するということに対しても、危険予知・ヒヤリハットも把握していけば、よりそういう労働災害だけではなく設備の事故が防げるということがあると思うので、そういう、うっかり操作を操作手順にない手順でやってしまったとか、あるいは、少し失念してこういうことがヒヤリとしたとか、そういう類いのヒヤリハットも把握していければ、より安全に操業できると思うのですが、いかがでしょうか。

○JESCO

ご指摘どうもありがとうございます。今ここに実例として記載している項目につきましては、主に労働災害を防止するという項目で記載しておりますが、今ご指摘いただきましたとおり、例えば実際に、いわゆる操作のミスをしたとか、そういったことも実ヒヤリとして挙げる対象として入れております。従いまして、そういった実ヒヤリ、あるいは実際には操作を間違えていなくても、ここの操作を間違いそうになったとか、表示が分かりにくいとか、ボタンを押し間違いやすいのではないかなというようなものも仮想ヒヤリとして挙げて、その改善を継続してやっているという状況です。

○監視委員

それであれば、そういう事例があれば紹介してほしいです。今までずっと見てきた中では、どうもそういうものが挙がってなかったような気がするのですが、もし労働災害以外にそういうものがあれば、事例紹介をまたお願いしたいと思います。

○JESCO

承知いたしました。ありがとうございます。

○座長

ほかにありませんか。

○監視委員

ヒヤリハットの事例が3つ挙がっていきまして、その真ん中の、階段を勢いよく下りてきてぶつかったのですかね。それで、対策としては上司から指導・注意となっていますけれども、本来は、急いでということでしたので、急ぐ状況をつくらなくするほうが大事なかなと思いました。それで、この事例では急いでいた理由が何だったかということと、それに対して何か対策をされたということであれば、教えていただけないでしょうか。

○JESCO

どうもありがとうございます。この急いでいた当人に、なぜ急いでいたかというところまで、実は確認はしていないという状況です。今後、こういった危険な階段の下り方をしないようにという注意をしたのですけれども、ただ、この案件に関しましては、当人に注意しただけではなくて、所内での安全会議の中で、こういった事例があったということを広く周知して、同様なことが起こらないようにということは、所内には周知しているという状況です。

○監視委員

ありがとうございます。できれば、急がなくていい状況に職場環境をしていただくとありがたいと思いました。

○JESCO

はい。どうもありがとうございます。

○監視委員

防災対策で、総合防災訓練の実施ということで今月26日に実施予定と聞いておりますが、その中で1つだけ、例えば2階、3階におられる作業員さんがどういう形で下に下りるかですが、その辺はどういう訓練をされているのかだけお聞きしたいと思います。

○JESCO

今回の訓練は、緊急地震速報によって地震が来るという想定での防災訓練ということで実施する予定としております。従いまして、大きな地震が来れば、基本的には、まず設備は自動的に安全に停止するという設備の機能を持っております。従いまして、まず地震が起きるという連絡が来た場合は、まず、自分の身の安全を守ることが最優先ですので、しっかり安全が守られる場所にまず退避をして、緊急地震速報があった場合は、もう1分かかるか、かからないかくらいで大きな地震が来るということですので、まずはしっかり身の安全を守った上で、その

あと、中央制御室というところがありますので、そこに防災対策本部を設置して、各設備に異常がないかどうか。申し訳ありません、前後しましたけれども、まずは、おっしゃられたとおり、作業員全員の身の安全の確認をします。まず、点呼が一番最優先ですので、そういった中で、まず点呼をした上で、それから設備の異常を確認するというような段取りで、防災訓練は実施していくということになります。

○座長

いいですか。

○監視委員

はい。

○座長

今の話で、防災訓練の動線の確認はやっていますか。

○JESCO

もともと施設の中で避難経路は定めておりますので、それに基づいて非難するということになります。

○座長

だから、どこで作業している場合に、どういう非難経路でいくか。いろいろなケースのケーススタディーはなさっていますかという話です。それで、地震が来た時に階段を 2 段飛びで下りていいですかという話とか、ここの部分は走っていいのか、ここの部分は走っては駄目なのか、そういうことは決めていますかという話です。人命がというと、大体人というのは慌てるもので、そういう動線を決めて、どのスピードで非難するかというのが訓練されていますかという質問なのです。

○JESCO

基本的には避難経路は定めておりまして、まず、エレベーター等は必ず使用しない。かつ、先ほどおっしゃられたとおり、早く非難するために走っていいかということになりますと、そこは走ることはいたしません。歩いて速やかに安全な退避をするということで訓練は実施しております。

○座長

管理区域がありますよね。それで、防護服はきちっと着替えて行動するということですよ。通常時と同じ、安全で PCB の漏洩のない状態で非難するというのが、この施設にとっての特別な訓練になるのではないかと思いますので、そういう訓練をぜひともやっていただきたいのです。

○JESCO

承知しました。どうもありがとうございます。

○座長

ほかにありませんか。

○監視委員

今の訓練についてですけれども、日本の訓練は正しいことを正しくやるという訓練になるのですよね。現場は、ごめんなさい、実践は訓練のごとし、訓練は何かのごとしというような。しかし、私が思う訓練の別のあり方の1つのアイデアですけれども、例えば、急いでそこから出る時に、安全は難しいところですが、服をぐちゃぐちゃに急いで脱いだらどんなことが起きるのだろうか、例えば、それは絵の具を付けていてもいいのですけれども、急いで脱いだらこんな失敗をするとか。

実は、日本人は失敗したときにどんなふうになるのだという訓練は一切やらないのです。正しく歩いて逃げましょうということをやって、訓練はすごくうまくいくのだけれど、現実の時には決してそうはいかないということになって、手順だけを守ろうとするのです。それを繰り返せば繰り返すほど、その機能ということをもみな忘れていくので、服を脱ぐ時にぐちゃぐちゃになる、こんなになる、急いで脱いだらこんなところを失敗するねとか、みんなで走るとここがぶつかりそうになるねとか、あえて発想を逆にした訓練もあるのだということを、少しだけサゼッションとして提供しておきたいと思います。

○JESCO

どうもありがとうございます。今後、防災訓練を実施する際に、今ご指摘いただいた件も含めて、新たな訓練としてできないか、検討を進めたいと思います。ありがとうございました。

○座長

それと、もう1つ、資料3の最後の面、これは別添2の裏、クレーンのフック、ハッカーとシャックルの関係の話ですが、これは第1期施設の受入れですよね。これは、何年これ無しで作業をやってきたのですか。

○JESCO

今、座長がおっしゃったのは、代表的な仮想ヒヤリ、9月の1期受入室で、この作業は、最近行っています。

○座長

最近ですか。これは通常運転の話ではないのですか。

○JESCO



通常運転の話ではありません。これは何をやっているかという、後ほどご説明しますけれども、今、1期の解体をしています。それで、2期のVTRで処理するためにこの作業が出ていますので、この数カ月くらいの話となります。

○座長

そうなのですか。通常運転の時に、シャックルなしですずっと20年間運搬してきたのだと思ったから、なぜ急にこんなことがでてるのかと。結局、定常時の運転の作業の1つではないのですね。最近の解体ですね。だから、非定常時の作業に関して、安全性に関して改良したということで、数カ月の話ですね。

○JESCO

はい。

○座長

分かりました。理解しました。だから、解体という非定常の作業というのは、こういう面も考えて、いろいろな面から安全を考えて作業してくださいねというのが、これ以外にも予想ができないようなことが、いろいろなところで見落としがあるのではないかと思います。そういうことです。よろしいですか。

○監視委員

今、座長が言われていた関係は、シャックルとかこういうものについては、作業者がその都度、こういうものに変えたほうが安全だよ、こういう便利なものがあるよという提案の中から変えられているものです。私もそれは経験があります。そういうものなのです。「ああ、これだったら安全だな」と。だから、それはそういうふうに理解してもらえればいいと思います。

それから、前回、2年の延長という話で、現在、もう既にその処理が始まっております。そういう中で、より安全にということを第一に、私どもの地元の若松では、自治会長さん、あるいは近隣の有志の方に、一回実際に見てもらおうという話を、今、進めております。それも近いうちに実現すると思います。

地元の人もそういう話を着々と進めておりますし、いずれにしても、何ととっても、とにかく安全なのです。絶対に事故は起こしてはならないのです。だから、お願いしたいのは、このヒヤリハットが6カ月で6件発生しております。これを何としてもゼロにしたいのです。これは人的なヒヤリハットみたいですが、この人的なヒヤリハットが作業に、あるいは技術的なものにつながるという恐れがありますので、6件を「少ない」ではなくて、ゼロにするように、ぜひ指導してほしいと思います。

私ども地元としては、何ととっても、一日も早く安全にこの処理が終

わることを願っております。そういうことで、JESCOにもぜひその辺を留意して作業を進めてほしいと思いますし、併せて、市の環境局のほうもしっかり、今まで以上に監視に入る、指導に入るということを心掛けてほしいと思っております。

○座長

ありがとうございます。ほかにありませんか。

○監視委員

お願いなのですが、10月26日実施予定の防災訓練を、もし可能であればよろしいのですが、録画ができればぜひ次回見せたいかと、イメージが湧くと思います。これは可能であればです。お願いします。

○JESCO

ありがとうございます。防災訓練では、中央制御室に防災対策本部を設置いたします。併せて、地震が原因による火災発生の現場での対応、あとは非難経路、並びに非難したあとの集合場所も決めておりますので、そこにまた非難者が集まる場所も設置するというような形で防災訓練をしておりまして、今、現時点ではビデオ撮影ということは全く考えておりませんでした。

なので、撮影してお分かりいただくためには、いろいろな箇所での映像を撮らなければいけないかなと、今、思っているところで、対応できるかどうか、すぐにはご回答できませんけれども、場合によっては準備がかなり必要かと思います。来週では間に合わない可能性もありますので、今後の防災訓練で皆様にご確認いただけるようなビデオ撮影をできることも、今後は考えていきたいと思えます。

○座長

ほかにありませんか。

○事務局

ここで、休憩と換気のためにお時間をいただきたいと思います。  
15時35分から再開しますので、それまでにご着席ください。  
それでは、休憩に入ります。

(休 憩)

○座長

では、資料4「処理対象量に係る前回監視会議以降での状況の変化について」、環境省から説明をお願いします。

○環境省

では、資料4についてご説明します。

前回監視会議以降での状況の変化ということで、振り返りではありませんが、前回5月16日に環境省から「受入条件の対応方針」という資料と併せて、令和4年度・5年度、2年間での処理計画についてお示ししておりました。その中では、安定器と汚染物を合わせて1,367tという数字を母数としまして、それを2年間で処理する計画ということでご説明していたところです。その際に、四半期ごとの処理計画量について記載しておりまして、令和4年度第2四半期、要は9月まで、順調に処理は進捗してきているという現状です。

この処理の進捗状況につきましては、別添1に詳しく記載しております。資料4の裏面をご覧ください。こちらは横の資料になっていて、大変恐縮ですが、「操業終了までの処理進捗管理表」ということでお示ししております。特にご確認いただきたいのが黄色で塗りつぶしている部分です。本年度の第1四半期と第2四半期の部分の数量です。こちらで、括弧書きの中に記載しているのが実績で、その前に記載しているのが計画量となっております。

特に「全体」という一番下の行をご確認ください。まず、4月・5月で言いますと、こちらの重点点検を行っていた期間ですので、計画、実績ともに「0」というところです。6月・7月8月というところをご確認ください。概ね計画どおりの数量、または計画を多少上回るような数量で処理が進捗していることがお分かりいただけるかと思います。9月だけが105tに対して87tというところで、少し数字が上がってないように見えるかと思うのですが、先ほど、資料1についてJESCOから、電力会社側のトラブルの関係で送電が止まり、プラズマ炉を8日間停止せざるを得なかったという状況をご説明差し上げました。その期間を踏まえると、実際に稼働できた期間においては非常に順調に処理が進捗していると言えると、環境省としては受け止めております。こちらが9月までの処理の状況についてのご説明です。

もう一度、資料の表面のほうにお移りください。こちらの2つ目のポツで、「一方で」というところからです。先ほどJESCOからの説明にもありましたけれども、安定器146t、汚染物25t、合わせて計171tについて、こちらはほとんどが高濃度PCB廃棄物ではなくて、実際は低濃度PCB廃棄物ですとか、PCBを含んでないような廃棄物ということがあとから判明したというものです。その結果、JESCO北九州事業所で処理を行うということではなくて、民間の無害化認定施設ですとか、非PCBであれば本当に通常の産業廃棄物の処理業者で処理をするということが可能ということが判明したという状況の変化です。

環境省といたしましては、数字が多少変動するたびに計画を見直すようなオペレーションというのは好ましくないと考えているのですが、一方で、この2年間での処理の予定量、1,367tに対して171tというのが、約12.5%くらいですか、それなりの割合に相当するということもありまして、やはりしっかり計画に反映をしてご説明をするべきだろうという考えで、今日、ご説明させていただくという次第です。この171tを引きますと、1,196tという数字になりますので、

こちらをベースとしてこの 2 年間の処理計画の見直しを行ったものです。

その具体的な見直しの案が、下の半分のスライドに「修正案」と赤字で記載しているところです。この見直しの考え方というところで、上のスライドにポイントを 3 点記載しております。

1 点目、見直しに伴い減少した分については、安定器を中心に令和 4 年度の処理量を減少させるということを記載しております。こちらの趣旨について補足で説明します。今回、処理対象物が安定器と汚染物等と、大きく分けて 2 種類あります。その中で特に処理が困難なほうは汚染物等のほうになっておりまして、午前中、立入りにご同行いただいた委員の皆様、仕分けの作業ですとかご確認いただいたと思うのですが、汚染物等というのは具体的には汚泥のような性状のものがかなり多いと思っていただければと思います。どろどろしたようなもので、非常に水分量が多いようなものでして、先ほど所長からもご説明がありましたが、そのままプラズマに入れてしまうと、処理温度が維持できなくて、温度が下がってしまうといったようなものです。そのため、安定器を一定の割合で一緒に処理するといったことが、汚染物の安定的な処理のために必要となっております。

そういった観点から、この 2 年間での処理を計画どおりに順調に進めるにあたっては、汚染物の処理をいかに安定的に進めるかといったところがポイントとなっております。そういった意味におきますと、令和 4 年度の汚染物の処理の計画量につきましては、当初計画 99 t に対して、ほぼ同等の 94 t ということで、そこはほぼほぼ変えないということで計画しております。

一方で、今回、その 171 t のうち 146 t が安定器でして、安定器の総量がだいぶ減っているといった状況です。仮に令和 4 年度のうちに安定器を当初立てた計画どおりの量で進めてしまいますと、令和 5 年度に残る安定器の量がかなり減ってしまいまして、そうなりますと、令和 5 年度に汚染物の安定的な処理を行うということが難しくなってくるということが予想されます。そのため、今回減った分につきましては、令和 4 年度の安定器の処理量を減少させるといった形で計画に反映するといった考え方で、この 2 年間の計画を組んでおります。

一方で、非常に重要な点といたしまして、見直しの考え方の 3 点目に記載してございますが、令和 5 年度第 4 四半期の処理計画量、ここは期限直前の四半期ということで、ここの計画量については安定器・汚染物ともに「0」ということで、変更はなしということで、そこは維持しているといったところであります。

資料 4 の説明としては以上です。

○座長

続きまして、資料 5 「PCB 廃棄物の処理状況と受入条件への対応について」、まず環境省から説明をお願いします。

## ○環境省

引き続きまして、資料5につきましてご説明します。スライドの1枚目といいますか、タイトルの次の1枚とその次の1枚は、北九州事業所そのものというよりは、日本全国のPCB全体の状況についてのご説明の資料です。

まず、1ページ目の下のスライド、「各事業地域における高濃度PCB廃棄物の処理の進捗状況」ということで、いろいろ、グラフですとか日本地図上での各事業所の処理割合ですとか記載しておりますけれども、要点といたしましては、変圧器、コンデンサーにつきましては、現在、存在を把握しているものについては、もうほぼ処理が終わってきている。新しく見つかったものを肅々と処理をしているというフェーズに入っています。一方で、安定器、汚染物等につきましては、全国平均で見ても82%ということ、まだそれなりに処理しなければいけない数量が残っているといった状況です。

次のスライド、2ページ目の上のスライドにお移りください。こちらでも振り返りという形で恐縮ですが、冒頭で課長からも言及させていただきました、昨年9月、こういった状況を受けて事業終了準備期間も活用して処理を継続させていただきたいということで、各立地自治体の方々に環境省から要請いたしまして、この3月、4月頃に、条件付きですが要請受入という回答を頂いたといった状況です。

その中で、北九州市様からいろいろな条件を頂いていますけれども、ほかの自治体様からもそれぞれ条件を頂いてまして、それぞれ厳密には異なるのですが、大きく分けると3つ、「処理の安全性確保」、「期限内での確実な処理」、「地域の理解の促進」といったところで、皆様、条件を頂いてまして、それについて環境省は全て対応するというところで承諾いたしました。

こちらの要請を承諾していただいたことを踏まえて、この5月31日にはPCB廃棄物処理基本計画というものを閣議決定しております。その決定のポイントということで、枠内に記載しておりますが、先ほど申し上げた事業終了準備期間も活用して処理を行うことを計画上明記したということ。それから、北九州事業所のほうでも1期施設のほう、変圧器・コンデンサーを処理していた施設は既に平成30年で閉じておりますので、そのあとに新しく見つかったものの処理先がなくて、ずっとこれまで保管を続けてきたといった状況がありました。そちらについて、大阪事業所と豊田事業所で広域処理を実施するということをご了承いただきましたので、この2点が計画の変更のポイントとなっております。こちらを踏まえて、今年6月1日からJESCO北九州事業所の操業を再開したといったところであります。

次からが、北九州市様から頂きました、今回の要請受入にあたっての上限についての、環境省の対応状況といったところをご説明します。

1つ目が、「処理の安全性確保」ということで、全ての受入条件、履行条件を読み上げることは差し控えますけれども、重要なポイントをかいつまんでご説明します。まず、非常に重要なポイントとして、今年

の4～5月に重点的な安全点検を実施しました。環境省も5回ほど立入検査でしっかりと、点検の計画どおり進んでいるか確認し、処理の再開の前には北九州市様と合同で安全確認も行って、結果として6月1日から処理を再開しております。

その後も環境省として毎月 JESCO に立入検査を実施しております。処理の安全対策が実効性のあるものとなるよう、引き続き JESCO の指導・監督を行っているところです。結果として PCB の外部漏洩ですとか健康被害といった重大な事案は、これまでのところ発生していないというところであります。

次のスライドに移ります。「期限内での確実な処理」のための取組についてです。こちらは、先ほど計画の見直しについてもご説明しましたが、この2年間の処理計画を月ごとでしっかりと目標値を立てて、そのとおり進捗しているかどうかといったところを、北九州市様、環境省、JESCO の3者で集まって、必ず月1で定例会議を行うことにしております。その中ですとか、こちらでも月1で行っている立入検査といったところを通じて、進捗状況を定期的に確認するという体制を整えております。

それから、自治体様、地方環境事務所と連携して、実際の保管事業者様への働き掛けを実施して、やはり処理側の JESCO に搬入されないで処理もできませんので、速やかに搬入がされるよう、その調整もしっかりと実施しているといったところで、9月までの実績については概ね計画どおり推移しているということで、先ほどもご説明しましたところです。

それから、令和6年度以降、北九州事業所のお約束までで処理を終わらせて、その後に新しく見つかった物をどうするのかといったところをご指摘いただいております。こちらにつきましては、現時点では各立地自治体様との関係等もありますので、なかなかこうする方針だということが、まだ環境省のほうからはっきりとご説明できる状態ではなくて大変恐縮でありますけれども、非常に重要なポイントと重々承知しておりますので、令和6年度以降の対策を含めて、今後の処理体制の整備については引き続きしっかりと検討を進めてまいりたいと考えております。

次のスライド、「取組みの確実性の担保」につきましては、これまでのご説明とかぶってくるところもありますのでけれども、北九州市様、環境省、JESCO、3者での定例の会議ですとか、そういった協議の場をしっかりと設けて、速やかに報告、ご相談して、その後の対応を協議するといった体制を整えております。また本日も、先ほど全体での PCB の処理の状況をご説明しましたがけれども、監視会議ですとか、その他協議会、早期処理連絡会といった様々な場を通じて、国全体の施策進捗状況について自治体の方々にも定期的に報告するといったことを行っているところです。

受入条件に対する環境省の対応状況としては以上です。

○座長

ただいまの環境省の報告に対する受入条件への対応については、市の側の意見をよろしく願います。

○北九州市

前回の監視会議等でもご説明しておりますが、この受入条件は、環境省から検討要請がありました PCB 処理事業の継続に関し、市民や議会の意見、想いを条件という形でとりまとめ、国に提示したものです。

本市からの提示に対しまして、環境省から「条件を承諾し、責任を持って確実に対応する」と回答を頂いております。これまでのところ、しっかりと対応していただいていると捉えております。事業継続にあたりましては、国としてやはり市民の意見や想いにしっかりと応えることが不可欠であると考えております。環境省におきましては、引き続きこの受入条件を確実に履行し、北九州での PCB 処理事業を計画どおりに完了させていただきたいと考えております。

○座長

ただいまの環境省からの説明、それから、市側からの見解に基づいて、質疑応答を行いたいと思います。資料 4 と資料 5 です。委員の方、よろしく願います。特にありませんか。

○監視委員

再確認したいのですが、再々延長はあり得ないということですね。

○環境省

要請受入のお話を頂いた時に大臣からもご説明いたしましたとおり、再々延長はありません。

○座長

ほかに。特にありませんか。

○監視委員

聞き漏らしたのかもしれませんが、資料 5 の下のほうの地図がありますが、その上に帯グラフがありますね。その「未登録」の 1 万台というのはどういう意味でしょうか。存在は分かっているわけですね。

○環境省

そうです。存在していることは把握しているのですが、今のところ登録というステータスに至っていないというものです。

○監視委員

それと、ついでですけれども、その横に「約1万台紛失」とありますが、この「紛失」というのはどういう意味でしょうか。

○環境省

こちらが、もともと製造業者からのヒアリング等で、これだけの量製造しているはずだといった数字を持っておりまして、それに対して現在把握している数量と比較したときに、1万台、どうしても数字が合わない部分がありまして、そこを形上、紛失というか、現在どこにどうなったか分からないということで、紛失という形にしておりますけれども、中には高濃度として登録はされているのだけれども、実際は低濃度ということで処理が済んでいるようなものも含まれていると考えております。

○監視委員

そうしますと、紛失というのは、今おっしゃったように、もう処理が済んでいるかもしれないということも含んでいるでしょうけれども、この未登録というものを、今後の処理としてどのようにお考えでしょうか。これは、先ほども質問があったのですけれども、再延長はあり得ないと言われたのですけれども、その重要な問題になると思うのです。

○環境省

非常に重要なご指摘と考えております。基本的には、ここに括弧書きで「今後の掘り起こし量を含む」と記載しておりますけれども、まずは、とにかく期限までに処理を完了されるということで、早期に発見して、それが処理に回るように自治体様とも協力をして、どんどん働き掛けていくといったことを、まず取り組むべきだと考えております。

その上で、北九州で言えばこの2年間で、どんなに頑張っても発見しきれなくて、では後から出てきてしまったものはどうするのだという点につきましては、やはりそれを処理できる体制を国として整えなければいけないという点は、重要な責務だと考えております。

そうしますと、北九州については再々延長はしないということで、先ほどもお答えしましたけれども、ではどこで処理するのかといったところを、国として整えなければいけないというところがありますので、そちらにつきましては、今後各方面と調整させていただいて、こういった形で処理体制を維持していくのかといったことを、しっかりとご説明できるような状態にしたいと考えているのですけれども、現時点につきましては、例えば「ここです」とか、そういったことについては、各立地自治体様との関係もありますし、公表として申し上げられる段階にないので、今後、国で検討がしっかり進んで、しかるべきタイミングで、こういった監視会議等の場でもご説明できるような形にしていきたいと考えてまいります。

○座長



今の話、いいですか。

○監視委員

はい。

○座長

ほかにありますか。

今の話で、環境省に確認したいのですけれども、要するに北九州事業所で処理する母数は変えないということですよね。微細な変更はあっても、期限内に処理できる数、母数、処理数に収めるという話ですよね。

○環境省

はい。

○座長

そういう単純な話ですよね。だから、この掘り起こしの対象物が、母数を変更させるほどの影響がないという確実な見込みを持ってらっしゃるということですよね。

○環境省

そのとおりです。5月に1,367tとご説明した際に、この掘り起こしの見込量を310tという形でご説明しました。310tというのも、非常に量が多く出てきたことを想定して、かなり余裕を持って設定している数字ですので、今回、171t減ということでご説明しましたが、今後このような形で多少減ったりすることはあるかと思うのですけれども、1,367tを上回るようなことは想定されないと考えております。

○座長

ありがとうございます。

では、よろしいですか。次の議題に移ります。

## 議題2 第1期施設の解体撤去工事の状況等について

○座長

次の議題は、議題2として、「第1期施設の解体撤去工事の状況等について」、JESCOから説明をお願いします。

○JESCO

資料6、「1期施設解体撤去の実施状況について」、ご説明します。パワーポイントがそれぞれ1ページに2つつ付いていまして、それぞれにページ番号があります。右下の所でございます。このページ番号を言いながらご説明したいと思っております。

まず、2 ページ目の、「北九州 1 期施設解体撤去の進め方」についてです。今、前のほうにも映しております。進め方ということで、現在、この第 1 段階の先行工事というものと、いわゆる配管・タンクの液抜き・洗浄については、既に完了しています。現在は、その次の工程であります、PCB の除去分別、いわゆる配管とかダクトで、やはり洗っても高濃度のものがあるといったものにつきましては、事前に撤去して、洗浄装置とか 2 期の VTR で処理をするということを、現在、進めているところです。また、そのあとに、プラント設備の解体撤去工事を行うといったところです。このスケジュールにつきましては、前回、2 月の監視会議の時にご説明差し上げた工程とほぼ同じということで、計画どおり物事を今進めているといったところです。

その次の、3 ページとなりますが、ではこの PCB の除去分別とは具体的にどういったところをやるのかといったところです。実際は配管とかが中心になるといったところがありますので、この図だと、右側に緑で二次洗浄装置というものがあります。この二次洗浄装置とか、時計回りにいきますと、液処理設備、それから溶剤蒸留回収装置とか一次洗浄装置、さらにその上にいきますが、1 期 2 期連絡配管、それから抜油設備といったものの配管周り、ポンプ関係も含みますが、そういったものを撤去して、洗浄とか VTR で処理をするといった流れです。

これに加えて、赤線で描いておりますが、二次洗浄排気ダクトとか一次洗浄排気ダクトといったダクト関係も、一部高濃度があるといったことが分かっておりますので、これらについても、今、撤去を進めているところです。

その実施状況が 4 ページになります。「分離塔加熱機等の除去分別実施状況」といったところです。写真の左上のところに、溶剤蒸留回収装置分離塔加熱器といったものがありますが、これも除去分別ということで、右側の写真にあるように、もう既にない状況となっています。また、この除去分別、配管の撤去を行うにあたっては、やはり作業環境中の PCB が問題がないかということや、1G6 の換気の PCB、ダイオキシン類が問題がないということを、都度確認しながら進めているところでございます。この分離塔加熱器、右側にありますが、作業環境も 1G6 の排気につきましても、その下のところに市協定値といたしまして、PCB、ダイオキシンの数字がでございます。これに比較しても十分低い数値で推移をしているところです。加えて、その下に作業環境管理濃度、PCB で 0.01mg という数値がありますが、これと比較しても十分低い数値で作業を進めているところです。その下のところに、粗解体抜油設備というものがあります。左側が除去分別、解体撤去をする前で、右側のほうが、そのあとということで、こちらは配管とポンプの塊ということから、全て撤去しているところです。

次の 5 ページとなります。こちらは、洗浄装置の実施状況でございます。洗浄装置のほうも、写真が若干見づらいのですが、この装置の中に配管・ポンプ関係があります。この辺りも、現在、きれいに取っているという形で、残っているのは洗浄槽とかタンクとか、この洗浄装

置のフレーム周りといった大きなものが残っていると。これらを今後のプラント解体撤去工事で撤去するという流れとなっております。

その次が、排気ダクトの状況です。左側のところに、少し見づらいのですが、天井の所に一次洗浄ダクトが黄色い矢印のところですが、これを、足場を組んで、グリーンハウスを上で組みながら解体撤去をしております。

次の 7 ページのところに動画を入れていますので、ご覧いただければと思います。

解体撤去の状況で、上の天井の所、横に走っている少し銀色のものがダクトです。この上の天井の所のダクトの下に、まず、取り除くために足場を組むという形のものをしております。

これは、ダクトの下は全て事前に足場を組むという形の作業をしているところです。このあとに、このダクトを囲むようにグリーンハウスを組んでおります。このグリーンハウスを組むことによって、この外に PCB が拡散しないということの対策です。このグリーンハウスの中は、局所排気装置で引っ張っております。

こちらが切断作業状況でございます。セーバーソーといった手工具を使って、ダクトを切断しています。今見えるのが、切断されたダクトです。

これは、両サイドを少し養生した上で、1 階の所に吊り下ろしをするといったところです。少し見づらくて申し訳ございません。これの右側の真ん中ほどにダクトが、ああいう感じで、上から下ろしてきたダクトは、このようになっております。

これは、先ほど言った VTR 処理をするということで、このように VTR のケースに入れて 2 期のほうに運ぶといった流れとなっております。

続きまして、8 ページです。では、残っている、あとやらなければならない除去分別作業が何かといったところですが、大きく 3 つあります。1 つは、溶剤蒸留設備というものと、あと、液処理設備があります。それから、3 つ目といたしましては、左下の写真にありますとおり、1 期-2 期の連絡配管といったものがありますので、この辺りの除去分別作業を行うということを計画しております。また、今後行うプラントの解体撤去工事に向けて、工事を円滑に進めるために、現状の管理区域内の壁に開口部を設けるという工事を、現在、計画しているところです。

この辺りが終わると、最終的にプラント設備の解体撤去工事に入るといったところで、こちらの撤去工事の準備状況です。工事実施に向けた準備状況として、現在、入札公告というものを 6 月 1 日に行いました。これは技術提案型と呼ばれるもので、いわゆる施工計画について、労働災害防止とか PCB の暴露防止といった観点から、施工上の提案を求めるといような形で、現在、提案を求めているところで、最終的には 11 月初旬の契約に向けて、今、進めているところです。

結果、解体撤去対象設備が残るのが、少し色を着色している所です。右側のところからいきますと、スクラバー設備とか、先ほど配管とかがなくなった洗浄装置とか、液処理設備とか、あと、中ほどにあります解

体分別装置、それから、左側の溶剤蒸留回収装置、これらの設備が残っているところです。

その下の 10 ページとなりますが、今後の工事工程です。これも 2 月にご説明差し上げたところから概ね変わっておりません。事前作業につきましては 10 月までに終わっております。それから、その下の、先ほどお話した液処理設備とか溶剤蒸留回収装置の配管とかの撤去、除去分別と呼んでいます、この辺りは 12 月末頃まで行うという流れとなっております。それから、今回対象工事、いわゆるプラント設備の解体撤去工事につきましては、11 月初旬に契約をするといったところがありますので、それ以降、現場事務所を設置するといった共通仮設を行って、大体 2 月の中旬くらいからプラント設備の解体撤去に着手するという形で、これまでご説明差し上げた計画とほぼ変わらず、今、進めており。

説明は以上です。よろしくお願いします。

○座長

ありがとうございます。今の JESCO からの説明、第 1 期施設の解体撤去工事の状況について、質疑応答をお願いいたします。どなたか。

○監視委員

順調に解体が進んでいるということで承りました。順調に処理が終わって、施設の無害化も済んで解体されているという解体の状況については、結構市民も関心が高いと思うのです。それで、この辺の状況が、PCB 処理だよりとかホームページとかで情報が少し遅いのではないかという気がしています。

先ほどのスケジュール等についても、私が発見してないのか、恐らく以前のものがホームページに載っているのではないかと思いますので、その辺は少しアップデートしていただいたほうがいいのではないかという気がします。

○JESCO

ありがとうございます。そこは本当に、申し訳ありません。その辺りはしっかり、タイムリーに情報を更新していきたいと思います。

○座長

今の資料 6 の説明は、次回の監視会議がこれの実際の本解体の開始よりもあとになる可能性があるのですが、ここであらかじめ解体の予定を明らかにしているという形で、解体の予定は、確定するのはもう少しあとですね。

○JESCO

はい。

○座長

それを説明してください。

○JESCO

9 ページのところになりますが、今、11 月初旬に契約をする予定と  
しています。ここで請負者が決まります。それによって、請負者のほうで、  
いつごろから共通仮設を組むとか、実際のプラント設備の撤去、どこか  
らやっていくのかといったような話が、恐らく 12 月とか 1 月とか、そ  
の辺りに施工計画という形で出てくると思います。それを踏まえて、早  
ければ 2 月の上旬から現場の工事に着手するという形になります。

従いまして、次回の監視会議の時には、場合によってはもう既に工事  
をしているところで、具体的にこういう安全対策を講じながら、こうい  
う工事を、いつくらいまでを目標に進めていきますというご説明をで  
できると考えております。

○座長

ですから、広報に関しても、しかるべき予定が確定した時期に明らか  
にするという予定ですね。

○JESCO

はい。

○座長

分かりました。  
ほかにありませんか。

○監視委員

この説明では、もう配管とかタンクの洗浄は終わっているとは思  
うのですけれども、今日、調査に行きましたよね。見に行って、タンク類、  
配管類がたくさんあったのですけれども、その中をきれいに洗浄してい  
るということですか。それと、あと、どういうもので洗浄をするのです  
か。

○JESCO

1 期ですけれども、洗浄は基本的には、1 期の処理で使っていた洗浄  
溶剤というものがございます。NS220 というものなのですけれども、その  
NS220 で洗うと。NS220 は蒸留塔できれいにします。きれいにして再利  
用するという形になります。

○監視委員

それで蒸留塔があるのですね。分かりました。確か石油系溶剤ですよ  
ね。

○JESCO

はい、そうなります。

○座長

これは、具体的な物質は明かせないという形ですけれども、確か PCB とダイオキシンの洗浄には非常に有効な溶剤であるということで、ずっと 20 年間運転してきているのですか。

○JESCO

そうです。操業当初から使っているものです。

○監視委員

それでもう全て洗っているということですね。あとはもう解体を待つだけだと。

○JESCO

はい。

○監視委員

了解しました。

○座長

ほかにありませんか。

これが最後の議題ですね。では、一応今日の監視会議の議題はこれにて終了します。

○監視委員

全体のことについて、少しだけいいですか。

○座長

そうですね。全体にわたっての質疑をしていませんでした。お願いします。

○監視委員

2 つ言わせてください。1 つは、私は危機管理のことをやっているの  
で、どんなことも、根本的にはその底辺に流れている思想とか哲学が大事だと、私は思っています。それで、2 つあります。

1 点目、ダイオキシンの組成が異なるのかという話と、環境基準以下だからいいのかという話は、全く違う話なのです。それが、いったんであつても、JESCO の中で答弁が混乱するということはありません。これは、私、昔も申し上げました。基準以下ならいいだろうというのは工学的考えで、しかし、どうして違っていくのだろうということは理学的考えだという話を以前にも申し上げました。今回、これがダイオキシンの組成は、最初は異ならないと言っていたのが、「いやいや、異なり

ますよ」と後ろで言う。それで、基準以下だからいいですよと言ったのが、「間違えました」と。実はダイオキシンの組成が異なるから、これは外部から入ってきているもので、安全だろうということはよく分かりました。しかし、そのことがそこで混乱するということは、そもそもあり得ないというのが1点目です。

それから、2点目ですけれども、すみません、もっと情緒的な話になるかもしれませんが、何か、我々が野党で、与党が答弁しているみたいなのです。

今日の中で、例えば、私が素晴らしいなと思ったのは、監視委員が、「こういうことは自分たちの中では日常的にやっていることだ。我々の所も一度見に来てくれませんか」と言った点です。しかし、JESCOは何の対応もないでしょう。それは、「見に行かせてください」と普通言うのではないですか。

そして、他の委員が、「訓練の録画を見せてくれないか」と。その時に、「いや、もう時期がこれだから、なかなか現実的には難しいですね」と。野党だったらそういう答えをするのです。私も霞ヶ関に少しだけいましたから。与党の偉い先生のときに、そんなふうにおっしゃいますか。「説明だけでも行かせてください」と多分言いますよ。

我々、ここに集まっている委員は、個人ではなくて北九州市民の、これを受け入れている地域の代表なのです。延長をしながらここまで、地域の人々はみんな頑張ってきた。それに対してあなたたちは……国にいたら分かるでしょう。与党の偉い先生に同じ答弁をされますか。私の経験では、しないです。「せめてご説明に伺わせてください」と言って、現実的にできなくても、今から訓練を、例えばビデオ撮影するということができなくても、「こんな訓練をやりますから」と言って説明だけにでも伺うというのが、国の役人が普通やっていることです。

もうこのところのこの会議というのが、そういうことがどんどんおざなりにされていっている。その中で、今後もこうやって解体作業をされていく。概ね安全にはいくのだらうと思うけれども、その安全性の哲学ということと、何よりも、日本の中で頑張って受け入れているという北九州市民の想いをもう少し大事にしてください。

#### ○座長

ありがとうございます。今の辛口の意見に対して、やはり、ある意味での北九州市民の思いだと思って、JESCOは対応をお願いしますということです。

この監視会議の総意として、それでよろしいですね。

では、議事を終わりにさせていただきたいと思います。では、事務局、よろしくお願いします。

#### ○事務局

委員の皆様、本日はどうもお疲れ様でした。また、貴重なご指摘・ご意見等々いただき、ありがとうございます。最後に、本当に市民の想い

を代弁していただけるような意見を頂きましたので、市もしっかりと受け止めて、JESCO 等々の指導に、また邁進していきたいと思っております。

次回の開催時期については、改めて調整の上、ご連絡いたします。

それでは、以上をもちまして、「第 50 回北九州市 PCB 処理監視会議」を閉会いたします。本日は、誠にありがとうございました。

〔終了〕